

伊能嘉矩生誕150年事業

今後の主な文化事業の予定について

No.	日程	時間	タイトル	講師	会場
1	3月4日(土)	13時30分～15時	博物館主催講座 「岩手三賢人の功績～伊能嘉矩の業績を中心に～」	國久 義雄氏(『岩手三賢人の功績』著者)	遠野市立図書館視聴覚ホール
2	5月9日(火)	9時～17時	「伊能嘉矩生誕の日」博物館無料開館 伊能嘉矩を知る① 初心者向け講座「伊能嘉矩の生涯」と ギャラリートーク ①13時30分～14時30分 ②18時30分～19時30分	博物館学芸員	遠野市立博物館
3	5月20日(土)	10時～11時30分	遠野文化研究センター土曜講座 伊能嘉矩を知る② 「伊能嘉矩と女戦国大名 清心尼」	文化研究センター学芸員、市民講師	遠野市立図書館視聴覚ホール
4	6月9日(金)	9時30分～11時30分	遠野市教育文化振興財団主催 生涯学習講座「伊能嘉矩と遠野の風景」	遠野市史編さん委員長 大橋 進氏	市内フィールドワーク
5	6月17日(土)	10時～11時30分	遠野文化研究センター土曜講座 伊能嘉矩を知る③ 「伊能嘉矩と日本考古学のあけぼの」	文化研究センター学芸員、市民講師	遠野市立図書館視聴覚ホール
6	7月15日(土)	10時～11時30分	遠野文化研究センター土曜講座 伊能嘉矩を知る④ 「伊能嘉矩と地震伝承」	文化研究センター学芸員、市民講師	遠野市立図書館視聴覚ホール
7	7月21日(金)～ 11月23日(木)	9時～17時	伊能嘉矩生誕150年記念特別展「伊能嘉矩と台湾研究」開催 第1期 平成29年7月21日(金)～9月24日(日) 第2期 平成29年10月1日(日)～11月23日(木) ※台湾大学からの資料借用は第1期のみ		遠野市立博物館企画展示室
8	8月20日(日)	13時～17時30分	遠野市・国立台湾大学図書館 文化交流協定書締結式・特別展記念講演	国史館館長 呉 密察 教授 国立台湾大学図書館館長 陳 光華 教授 (あいさつ、協定書署名)	あえりあ遠野交流ホール
9	9月23日(土)	13時30分～15時	遠野市教育文化振興財団主催 生涯学習講座「伊能嘉矩と甘藷の愛」	岩手めんこいテレビ プロデューサー 工藤 哲人氏(拓殖大学客員教授)	遠野市立図書館視聴覚ホール
10	10月21日(土)	13時30分～15時	博物館講座「後藤新平と伊能嘉矩」	後藤新平記念館館長 高橋 力氏	遠野市立図書館視聴覚ホール
11	11月15日(水)～ H30年1月15日(月)		国立台湾大学図書館共催「伊能嘉矩展」開催 主催 パネル展 遠野市立博物館、資料展 国立台湾大学		国立台湾大学図書館展示室(台湾台北市)

※主な事業等については、遠野文化研究センターHP(<http://tonoculture.com/>)で公開しています。



伊能嘉矩生誕150年記念事業
台湾人類学の先駆者

伊能嘉矩

発行 遠野市立文化研究センター
遠野市立図書館博物館
岩手県遠野市東館町3番9号
Tel 0198-62-2340 Fax 0198-62-5758

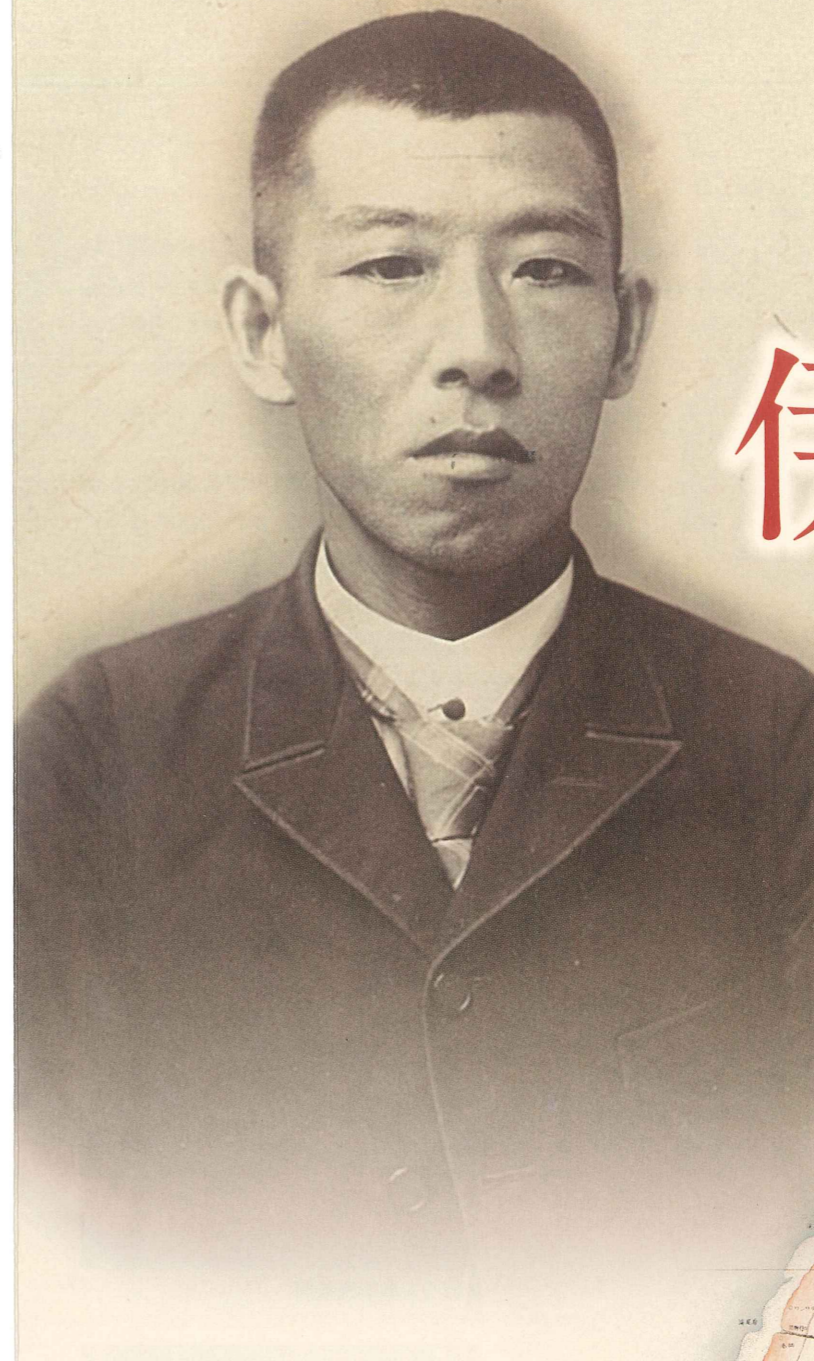


伊能嘉矩生誕150年記念事業

台湾人類学の先駆者

いのう かのり

伊能嘉矩



台湾人類学者

慶応3年(1867)～大正14年(1925)

2017年は、台湾人類学の先駆者 伊能嘉矩の生誕150年という節目の年です。

伊能嘉矩は、慶応3年(1867) 遠野南部氏の城下町遠野に生まれ、明治26年(1893) 東京帝国大学の坪井正五郎から人類学を学びました。明治28年(1895) 台湾に渡り、10年間にわたって先住民族の調査・研究を行いました。遠野に帰ってからは、台湾研究を進めるかたわら、柳田國男や佐々木喜善、ネフスキーなどの民俗学者と交流し、『遠野物語』の成立にも影響を与えました。台湾研究の名著『台湾文化志』は、現在も国際的に高い評価を受けています。

台湾人類学の先駆者 伊能嘉矩

生い立ち

伊能嘉矩は慶応3年(1867)5月9日、横田村新屋敷(今の遠野市東館町)に代々南部家に仕える学者の家系に生まれました。幼名を容之助、名前を祖父友寿の幼名を継いで嘉矩と名乗りました。

嘉矩が3歳の時に母千代子が病気で亡くなり、翌年に父守雄は医学を学ぶため上京し、嘉矩は曾祖父九十九、祖父友寿、祖母志奈のもとで育てられました。幼い頃から勉学に励み、19歳の時に『日本維新外史』(漢文)、27歳の頃には大日本教育新聞の編集長となり『戦時教育策』や『戦時教育修身訓』などを著しています。

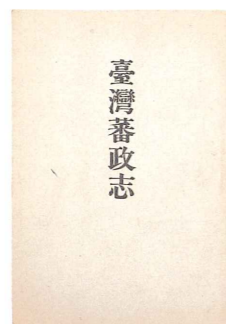
27歳のとき坪井正五郎に師事して人類学を学び、日本ではじめて東北地方のオシラ神信仰を「奥州地方に於いて尊信せらるるオシラ神に就いて」と題して学会誌に発表しました。



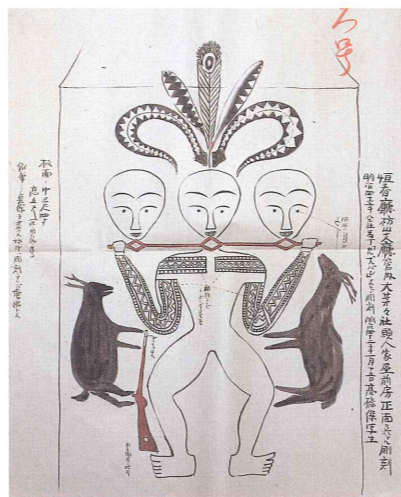
父守男(右側)とともに(中央が嘉矩)



オシラサマ



『台湾蕃政志』
明治37(1904)刊



パイワン族彫刻絵図

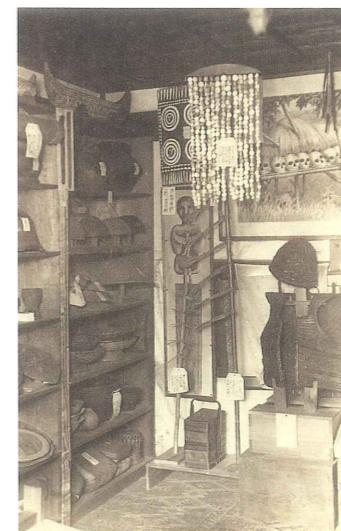
台湾へ

明治28年(1895)伊能は学んだ人類学を実践するための新しい場所を求めて、台湾に渡りました。当時の台湾は治安の不安定もさることながら、熱帯性風土病マラリア・コレラ・ペスト、さらにハブやコブラの毒蛇など、いずれも死につながる危険が身近に存在していました。伊能のノートにはマラリアのことが何度も記録されています。

こうした困難な状況の中、伊能は台湾総督府で仕事をしながら様々な種族の言語・習慣・生活様式等の調査に情熱を傾け、明治39年(1906)に帰国するまでの10年間に『台湾蕃政志』をはじめ、多くの論文を執筆しました。台湾各地の現地調査により、先住民の9つの種族に分類。その成果が認められ、現在でも種族系統研究の基礎となっています。



台湾にて明治34年(1901)12月



台湾館写真
帰郷後、自宅に隣接した離れを増築、
台湾館と名付けて資料を公開した。



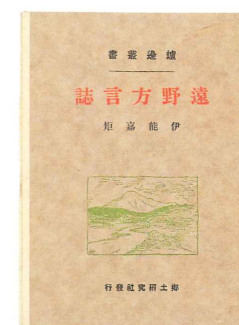
第7回在岩手県人懇親会 明治35年(1902)9月後藤民政長官官邸にて
(後列右から3番目)

台湾研究の集大成 『台湾文化志』の出版

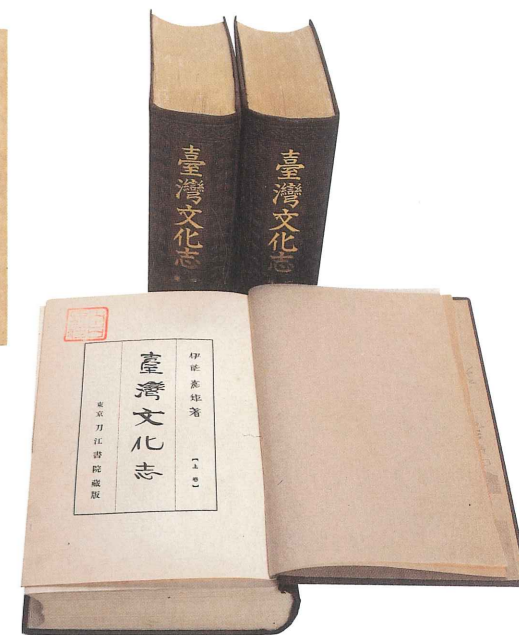
遠野に帰郷後は『台湾文化志』などの台湾調査の原稿をまとめ、遠野の歴史と民俗の調査を行い、『上閉伊郡志』『遠野史叢』『遠野方言誌』などの執筆に打ち込みました。

また、『遠野物語』出版の前年にあたる明治42年(1909)、柳田国男が遠野を訪れました。その時に伊能は初めて柳田国男と対面します。二人は台湾での研究や民俗資料、遠野の伝承について話を弾ませました。

しかし、大正14年(1925)台湾で感染したマラリアが再発し、伊能は9月30日に59歳で亡くなりました。伊能が亡くなった翌年には、伊能先生記念郷土学会が柳田国男を顧問に設立されました。伊能嘉矩の遺稿である『遠野方言誌』や『台湾文化志』を出版し、伊能の功績を後世に伝えています。



『遠野方言誌』
大正15年(1926)刊



『台湾文化志』
昭和3年(1928)刊

伊能嘉矩年譜

慶応3年	(1867)	5月9日(新暦6月11日)	伊能嘉矩誕生
明治13年	(1880)	14歳 4月	横田村一番小学校を卒業、その後は外祖父江田霞邨らの教えを受ける。
明治19年	(1886)	20歳 12月	給費推挙生として岩手県師範学校に入学
明治22年	(1889)	23歳 3月	岩手県師範学校退学、その後上京
明治26年	(1893)	27歳 3月	大日本教育新聞の編集長となる
明治27年	(1894)	28歳 10月	東京人類学会入会、坪井正五郎に師事
明治27年	(1894)	28歳 5月	『東京人類学雑誌』に「奥州地方に於いて尊信せらるるオシラ神に就いて」を発表
明治28年	(1895)	29歳 11月	台湾総督府嘱託となる
明治28年	(1895)	29歳 12月	「台湾人類学会」創立
明治35年	(1902)	36歳 1月	『台湾年表』発行
明治41年	(1908)	42歳 2月	遠野に帰る
明治42年	(1909)	43歳 8月	柳田国男と対面
明治43年	(1910)	44歳	「遠野史談会」を設立
大正10年	(1921)	55歳	『遠野史叢』発行
大正14年	(1925)	59歳 9月30日	逝去
大正15年	(1926)	1月	「伊能先生記念郷土学会」設立
昭和3年	(1928)	9月	『台湾文化志』発行



ツオウ族(伊能写真帳より)

アタイヤル族埔里方面
(伊能写真帳より)